

九州病虫害研究会 第 98 回研究発表会 プログラム

共催 日本植物病理学会九州部会

2019 年 11 月 6 日 (水)

会場 全労災ソレイユ

〒870-0035 大分県大分市中央町 4 丁目 2 番 5 号

TEL:097-533-1121

発表会場および進行予定

虫害 講演 15 分 (1 鈴 12 分, 2 鈴 15 分) 質疑 4 分 (終鈴 19 分)
病害 講演 12 分 (1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分) 質疑 2 分 (終鈴 14 分)

虫害会場		病害会場	
口頭発表		口頭発表	
アイリス (7F)		カトレア A (7F)	
9:30-11:30	No. 1 ~ 6	10:05-11:50	No. 1 ~ 7
昼休み ※植物病理学会九州部会幹事会 (3F 水仙) 12:00-13:00 植物病理学会九州部会総会 (カトレア A) 13:15-14:15			
13:00-14:30	特別講演	14:25-15:10	受賞講演
		15:15-17:30	No.8-16

九州病虫害研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

HP <http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

【講演にあたっての注意事項・その他】

1. 講演ファイルは必ず CD-ROM または DVD に書き込んでお持ち下さい。USB メモリは使用できませんのでご注意ください。パソコンは、予め会場に設置したものを 사용합니다。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。
2. ファイル名は「‘虫害’ または ‘病害’ + 講演番号 (半角 2 ケタ) + 発表者名」として下さい。
例 1: 虫害会場 1 番目の発表の場合 虫害 01 村田.pptx
例 2: 病害会場 25 番目の発表の場合 病害 25 村田.ppt
3. スライド受付、インストールは虫害・病害各会場で行いますので、午前・午後の開始前までにファイルの入った CD-ROM または DVD を各会場のスライド受付担当にお渡し下さい。公演中は受け付けませんので、時間厳守をお願いします。
4. スライド映写用 PC の OS は Windows7 で、PowerPoint 2007 をインストールします。互換性の問題から図の配置や動画の再生環境が変更される可能性がありますので、スライド映写用 PC にインストール後に動作確認をお願いします。
5. 講演要旨は本会ホームページ内に掲載しておりますので印刷してご持参下さい。

【講演要旨の内容確認と再提出について】

第 98 回研究発表会の講演要旨は、九州病害虫研究会報第 66 巻に掲載されます。発表者は講演要旨の内容、誤字脱字等を再度確認して下さい。特に、下記の点について確認・修正をお願いします。規定等が守られていない場合には、演題のみの掲載とします。

講演要旨の訂正が必要となった場合には、研究会終了後に訂正した講演要旨を編集幹事に再提出して下さい。再提出は電子メール添付ファイルとし、締め切りを 11 月 20 日 (水)とします。

【九州病害虫研究会第 99 回春季研究発表会の開催お知らせ】

第 99 回春季研究発表会を下記のとおり開催します。

記

1. 日時 2020 (令和 2) 年 1 月 30 日(木) 9:00~17:00 (予定)
2. 会場 菊南温泉ユウベルホテル 〒861-5517 熊本県熊本市北区鶴羽田 3 丁目 10-1 (TEL) 096-344-5600 会場ホームページ (<http://kikunan-ubllhotel.jp/>)

詳細については後日、当会ホームページ (<http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>) にて掲載いたします。

虫害の部

会場:ソレイユ 7階 アイリス

講演 15 分・討論 4 分(1 鈴 12 分, 2 鈴 15 分, 3 鈴 19 分)※次講演の準備 1 分

<午前の部>

9:00 開場
9:25 事務連絡

座長:北村登史雄(農研機構九州沖縄農研)

※2 以降は直前の発表者が座長を務める。

-
- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 9:30 | 佐賀県のアスパラガス圃場で発生したミカンキイロアザミウマの発生消長および数種薬剤に対する感受性
○成富毅誌・井手洋一
(佐賀農業セ) |
| 2 | 9:50 | 有機栽培冬どりキャベツにおけるBT剤によるチョウ目害虫の被害軽減効果について
○原本すみれ・平田真紀子 ¹⁾ ・森則子 ²⁾ ・井手洋一
(佐賀農業セ・ ¹⁾ 佐賀県園芸課・ ²⁾ 佐賀県農産課) |
| 3 | 10:10 | マンゴー葉に寄生するマンゴーハフクレタマバエに対する各種薬剤の殺虫効果
○清水優子・守屋伸生・謝花 治・松村まさと
(沖縄農研セ名護) |
| 4 | 10:30 | ナスコナカイガラムシの殺虫剤評価手法および有効薬剤の選定
○柿元一樹
(鹿児島農総セ) |
| 5 | 10:50 | 深層学習によるイネウンカ類の識別
○高山智光 ¹⁾ ・矢代敏久・真田幸代・張 煜 ¹⁾ ・竹谷 勝 ¹⁾
(農研機構九州沖縄農研・ ¹⁾ 農研機構農情研) |
| 6 | 11:10 | ウンカシヘンチュウ <i>Agamermis unka</i> Kaburaki & Imamura 卵放飼後の定着状況
○吉田睦浩・木村貴志 ¹⁾ ・真田幸代
(農研機構九州沖縄農研・ ¹⁾ 現 農研機構農業環境セ) |
-

<休憩> 11:30~13:00

13:00 特別講演1 講演 40 分, 討論 5 分

「社会性昆虫シロアリにおける性の意義について」

矢代敏久

13:45 特別講演2 講演 40 分, 討論 5 分

「虫媒性ウイルス病発生圃場における天敵利用
～トマト栽培におけるタバコカシカメの利用とトマト黄化葉巻病～」

北村登史雄

14:30 閉会挨拶

病害の部

会場:ソレイユ 7階 カトレア A

講演 12 分・討論 2 分(1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分, 3 鈴 14 分)※次講演の準備 1 分

<午前の部>

9:15 開場

10:00 事務連絡

座長:藤原和樹(農研機構九州沖縄農研)

-
- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 10:05 | 高温順化によりイネばか苗病菌 <i>Fusarium fujikuroi</i> 菌糸に獲得された熱耐性
○横井信太郎・草場基章
(佐賀大) |
| 2 | 10:20 | ゲノム比較解析によるショウガ科作物青枯病菌に特異的な遺伝子群の同定
○児玉佐和 ¹ ・飯山和弘 ¹ ・酒井順子 ² ・矢野和孝 ³ ・松元 賢 ⁴ ・土屋健一 ¹ ・堀田光生 ² ・古屋成人 ¹
(¹ 九大院農・ ² 農研機構農業環境セ・ ³ 高知農技セ・ ⁴ 九大熱研セ) |
| 3 | 10:35 | サンセベリア炭疽病菌感染葉を用いた RNA-seq 解析による病原性関連遺伝子の探索
○内村拓人・中村正幸・岩井 久
(鹿児島大農) |

座長:菅野善明(南九州大環境園芸)

-
- | | | |
|---|-------|--|
| 4 | 10:50 | 沖縄県のインゲンマメにおけるカッコウアザミ葉脈黄化ウイルスによる黄化葉巻病(仮称)の発生
○富高保弘 ¹ ・山口綾子 ² ・田中彩友美 ¹ ・河野伸二 ³ ・大貫正俊 ¹
(¹ 農研機構九州沖縄農研・ ² 沖縄県病虫害防技セ・ ³ 沖縄農研セ) |
| 5 | 11:05 | ブドウから検出されたホップ矮化ウイロイドの特異な変異体と新アプスカウイロイド
○千秋祐也・伊藤隆男
(農研機構果茶研) |
| 6 | 11:20 | 宮崎県の施設栽培キュウリ周辺雑草におけるメロン黄化えそウイルスおよびミナミキイロアザミウマの発生状況
○安達修平 ¹ ・田中彩友美 ¹ ・富高保弘 ¹ ・竹原剛史 ² ・黒木修一 ²
(¹ 農研機構九州沖縄農研・ ² 宮崎総農試) |
| 7 | 11:35 | ホオズキのトバモウイルスに対する乾熱滅菌処理種子由来の実生苗の防除効果
○臼井真奈美 ¹ ・田爪久美子 ²
(¹ 宮崎総農試・ ² 宮崎県児湯農林振興局) |
-

＜休憩＞ 11:50～13:00

＜植物病理学会九州部会幹事会 3階 水仙＞ 12:00～13:00

＜午後の部＞

＜植物病理学会九州部会総会＞ 13:15～14:15

14:25 平成 30 年度受賞者講演

講演 40 分, 討論 5 分

座長: 岩井 久 (鹿児島大学)

地域貢献賞

「沖縄県に発生する植物病の診断と防除に関する研究」

沖縄県農業研究センター

河野伸二 氏

座長: 園田亮一 (農研機構九州沖縄農研)

-
- | | | |
|----|-------|--|
| 8 | 15:15 | タマネギべと病の防除の効率化を目的とした異なるノズルによる散布での水滴付着程度の評価
○井手洋一・古田明子
(佐賀農業セ) |
| 9 | 15:30 | タマネギべと病の二次感染発病直後からでもアジュバントを加用した殺菌剤併用散布で収量低下を回避できる
○田代暢哉・中山伸一・宮崎尚子・宮口邦子・浦川綾子・川内孝太・田中義樹
(佐賀上場営農セ) |
| 10 | 15:45 | ジャガイモ疫病初発生予測プログラム FLABS 長崎版への農研機構メッシュ農業気象データの適用
○菅 康弘
(長崎農技セ) |

- 11 16:00 **2016～2018 年の九州地方における飼料用イネ品種から分離されたイネいもち病菌のレースについて**
○園田亮一¹・井上博喜¹・川上 顕²・宮坂 篤¹・林 長生³
(¹農研機構九州沖縄農研・²農研機構西日本農研・³農研機構生物研)
- 12 16:15 ***Gilbertella persicaria* によるアセロラ実腐病(新称)**
○澤岬哲也¹・山城麻希¹・河野伸二¹・松村まさと²
(¹沖縄農研セ・²沖縄農研セ名護)
- 13 16:30 **パイナップルコナカイガラムシによるパインアップル小果腐敗病菌 *Fusarium ananatum* の媒介の可能性**
○山城麻希¹・河野伸二¹・澤岬哲也¹・稲田拓郎¹・竹内誠人²・大嶺悠太²
(¹沖縄農研セ・²沖縄農研セ名護)

- 14 16:45 **サツマイモ基腐病菌 *Plenodomus destruens* Harter の *nit* 変異株の作製**
○野見山孝司¹・富岡啓介²・中保一浩¹
(¹農研機構野花研・²農研機構西日本農研)
- 15 17:00 **キウイフルーツかいよう病に対するポット苗を用いた抵抗性評価方法の検討**
○菊原賢次
(福岡農林試)
- 16 17:15 **長崎県の半促成長期どり栽培アスパラガスにおける品種 UC157 および Grande の茎枯病耐病性の雌雄間差**
○中村吉秀¹・江頭桃子²
(¹長崎農技セ・²現長崎県農産園芸課)
- 17:30 閉会挨拶(次期開催地幹事)